

## 特定外来生物の新規指定について（報告）

環境省自然環境局  
野生生物課外来生物対策室

特定外来生物等専門家会合における検討結果を踏まえ、令和 2 年 9 月 11 日に「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律施行令」（平成 17 年政令第 169 号）を改正し、下記の 4 科、4 種群、5 種、1 交雑種について、新たに特定外来生物への指定を行った。新規指定種の概要は、別紙のとおり。

改正政令は 11 月 2 日に施行され、規制が開始されている。

### <昆虫類等陸生節足動物>

- ・ハヤトゲフシアリ (*Lepisiota frauenfeldi*)
- ・ソレノプシス・ゲミナタ種群 (*Solenopsis geminata* 種群)
- ・ソレノプシス・サエヴィシマ種群 (*Solenopsis saevissima* 種群)
- ・ソレノプシス・トゥリデンス種群 (*Solenopsis tridens* 種群)
- ・ソレノプシス・ヴィルレンス種群 (*Solenopsis virulens* 種群)
- ・上記 4 種群に含まれる種間の交雑種

### <その他無脊椎動物>

- ・ディケロガンマルス・ヴィルロス (*Dikerogammarus villosus*)
- ・ザリガニ科の全種 (Family Astacidae)
- ・アメリカザリガニ科の全種 (Family Cambaridae)
  - ※アメリカザリガニ (*Procambarus clarkii*) を除く。
- ・アジアザリガニ科の全種 (Family Cambaroididae)
  - ※ニホンザリガニ (*Cambaroides japonicus*) を除く。
- ・ミナミザリガニ科の全種 (Family Parastacidae)

### <植物>

- ・エフクレタヌキモ (*Utricularia cf. platensis*)
- ・ウトゥリクラリア・インフラタ (*Utricularia inflata*)
- ・ウトゥリクラリア・プラテンシス (*Utricularia platensis*)
  - ※上記 3 種については、外来生物法第 2 条第 1 項に基づく生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものの器官として、「茎」も特定外来生物に指定した。

また、新種として記載された在来種のオガサワラモクズガニ (*Eriocheir ogasawaraensis*) について、特定外来生物からの除外の明確化を行った。

※ 従来、在来種「モクズガニ」を除くモクズガニ属の全種が特定外来生物に指定。

## 特定外来生物に新規指定された種の概要

種類名	学名	評価の理由
ハヤトゲフシアリ	<i>Lepisiota frauenfeldi</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物であるアルゼンチンアリと同程度の侵略性があり、オーストラリアやグアムでは深刻な被害をもたらす侵略的外来アリとして防除が進められている。侵入防止及び初期侵入段階での早期防除、分布拡大防止を進める観点から指定が必要である。</li> </ul>
ソレノプシス・ゲミナタ種群 (ソレノプシス・アムブリュキラ、 ソレノプシス・アウレア、 ソレノプシス・ブルエスイ、 ソレノプシス・ガイイ、 ソレノプシス・クスイロニ)	<i>Solenopsis geminata</i> 種群 ( <i>Solenopsis amblychila</i> 、 <i>Solenopsis aurea</i> 、 <i>Solenopsis bruesi</i> 、 <i>Solenopsis gayi</i> 、 <i>Solenopsis xyloni</i> )	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に特定外来生物に指定されているヒアリ及びアカカミアリの分布拡散にともない、世界的に生態系、農業、人体への影響が見られているが、いわゆるヒアリ類 (Fire ants) と呼ばれる4種群 (23種) は形態的に酷似しており分類が困難であること、雑種を形成すること、生態的にも類似しており同様の被害を及ぼすおそれがあることから、既に特定外来生物に指定されているヒアリ及びアカカミアリに加え、4種群及びそれらに属する種間の交雑種の指定が必要である。</li> </ul>
ソレノプシス・サエヴィシイマ種群 (ソレノプシス・ダグエルレイ、 ソレノプシス・エレクトウラ、 ソレノプシス・ホスティリス、 ソレノプシス・インテルプタ、 ソレノプシス・マクドナギ、 ソレノプシス・メゲルガテス、 ソレノプシス・メタルリカ、 ソレノプシス・プシルリグニス、 ソレノプシス・ピュティア、 ソレノプシス・クインクエクスピス、	ヒアリ類 <i>Solenopsis saevissima</i> 種群 ( <i>Solenopsis daguerrei</i> 、 <i>Solenopsis electra</i> 、 <i>Solenopsis hostilis</i> 、 <i>Solenopsis interrupta</i> 、 <i>Solenopsis macdonaghi</i> 、 <i>Solenopsis megergates</i> 、 <i>Solenopsis metallica</i> 、 <i>Solenopsis pusillignis</i> 、 <i>Solenopsis pythia</i> 、 <i>Solenopsis quinquecupis</i> 、	

クロヒアリ、 ソレノプシス・サエヴィスイマ、 ソレノプシス・ウェイラウキ)	<i>Solenopsis richteri</i> 、 <i>Solenopsis saevissima</i> 、 <i>Solenopsis weyrauchi</i> )	
ソレノプシス・トゥリデンス種 群 (ソレノプシス・スプステイトウタ、 ソレノプシス・トゥリデンス)	<i>Solenopsis tridens</i> 種群  ( <i>Solenopsis substituta</i> 、 <i>Solenopsis tridens</i> )	
ソレノプシス・ヴィルレンス種 群 (ソレノプシス・ヴィルレンス)	<i>Solenopsis virulens</i> 種群  ( <i>Solenopsis virulens</i> )	
ディケログンマルス・ヴィルロスス	<i>Dikerogammarus villosus</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常に貪欲な捕食者であり、国内の淡水域に生息するヨコエビ類と比較して体サイズも大きいため、多種多様な水生無脊椎動物や魚類の卵や仔魚を捕食することで食物網の改変を引き起こす等、在来生物群集に大きな影響を与えると考えられる。幅広い塩分濃度、温度で生息が可能で、淡水から汽水の広域に侵入できる。成長速度が速く多産であるため、日本に定着すれば在来の淡水生態系に大きな影響を与える可能性があり指定が必要である。</li> </ul>
ザリガニ科	Astacidae 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物であるアスタクス属やウチダザリガニなどを含んでおり、同属の他種も同様に、国内に定着すればニホンザリガニとの競合や、植物の切断による環境の改変、在来動植物の捕食等により在来の淡水生態系に大きな影響を与える可能性がある。また、ザリガニペスト（アファノマイセス菌）や白斑病のキャリア（保菌者）になることから、定着可能性の有無に関わらず、在来の絶滅危惧種であるニホンザリガニを含む淡水生態系やエビ・カニ類の養殖</li> </ul>

		業に大きな影響を与える可能性があり、指定が必要である。
アメリカザリガニ科（アメリカザリガニを除く）	Cambaridae 科（ <i>Procambarus clarkii</i> を除く）	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定外来生物であるラスティークレイフィッシュや、海外で在来種に被害を及ぼしているノーザンクレイフィッシュ、ミステリークレイフィッシュなどの種を含んでおり、同属の他種も同様に、国内に定着すればニホンザリガニとの競合や、植物の切断による環境の改変や在来動植物の捕食等により在来の淡水生態系に大きな影響を与える可能性がある。特にミステリークレイフィッシュはペットとして比較的安価に販売されており、単為生殖を行うため、1個体からでも個体群形成が可能で、定着の危険性が高い。また、ザリガニペスト（アフエノマイセス菌）や白斑病のキャリア（保菌者）になることから、定着可能性の有無に関わらず、在来の絶滅危惧種であるニホンザリガニを含む淡水生態系やエビ・カニ類の養殖業に大きな影響を与える可能性があり、指定が必要である。</li> </ul>
アジアザリガニ科（ニホンザリガニを除く）	Cambaroididae 科（ <i>Cambaroides japonicus</i> を除く）	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内に定着すれば、ニホンザリガニとの競合や、植物の切断による環境の改変や在来動植物の捕食等により在来の淡水生態系に大きな影響を与える可能性がある。また、ザリガニペスト（アフエノマイセス菌）や白斑病のキャリア（保菌者）になる可能性があることから、定着可能性の有無に関わらず、在来の絶滅危惧種であるニホンザリガニを含む淡水生態系やエビ・カニ類の養殖業に大きな影響を与える可能性があり、指定が必要である。</li> </ul>

ミナミザリガニ科	Parastacidae 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定外来生物であるケラクス属などの種を含んでおり、同属の他種も同様に、国内に定着すればニホンザリガニとの競合や、植物の切断による環境の改変や在来動植物の捕食等により在来の淡水生態系に大きな影響を与える可能性がある。特に、本科には大型になる種も多く、これらはさらに競争力が強いと考えられる。また、ザリガニペスト（アフノマイセス菌）や白斑病のキャリア（保菌者）になる可能性があることから、定着可能性の有無に関わらず、在来の絶滅危惧種であるニホンザリガニを含む淡水生態系やエビ・カニ類の養殖業に大きな影響を与える可能性があり、指定が必要である。</li> </ul>
エフクレタヌキモ	<i>Utricularia cf. platensis</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エフクレタヌキモは、水面だけでなく水底近くにまで繁茂するため、防除が困難であり、水生の生物相への影響が大きい。このため、外来のタヌキモ類の中で、特に生態系への影響が深刻な種類である。今後分布が拡大した場合、自然性の高い貴重な生態系であるため池や湿地に生育する希少な水生植物（水草）と競合するなど、在来の生態系に大きな被害を及ぼす可能性がある。ウトゥリクラリア・インフラタとウトゥリクラリア・プラテンシスについても、形態的特徴や生態的特徴がエフクレタヌキモに類似していることから、日本で定着した場合には、同様の被害を及ぼす可能性が高い。このため、これらの種について指定が必要である。</li> </ul>
ウトゥリクラリア・インフラタ	<i>Utricularia inflata</i>	
ウトゥリクラリア・プラテンシス	<i>Utricularia platensis</i>	